

No. 58

2004

6月1日発行

萩の郷

発行者
下市田区
発行責任者
大屋敷 清利
印刷
下市田・キタバヤシ印刷

神の木に みんなの心がひとつになった



三月二十八日、萩山神社の御柱大祭が行われた。山に眠っていた松の太木が、みんなの力によって神の木となった。この日は天気もよく、大勢の人たちに見守られながらの曳行でもあった。

たかが一本の木の、どこにあれだけの求心力があるのだろうか……聞けば本家本元の諏訪大社の御柱では、宗旨を越えた、あらゆる人々が参加していたそうだ。

それは単に神道という一宗教による力ではないのではないか？ 古来日本人はあらゆる自然界に心からなる畏敬の念を抱きつづけてきた。八百万（やほよろず）の神々こそ、この国の姿なのだ。

現代の消費社会は、ともすればこうした、連綿と続く農耕民族の心を奪おうとする巨大な力を振るう。それこそが公害に苦しみ、ゴミの山に社会を埋め尽くそうとする。現代の病理の根源なのではあるまいか。

一本の木を神にしてしまったみんなの力こそ、人間が本来持つべき力であり、助け合うことがますます大切になる、これからの社会の指針とすべき、何かが秘められているように思うのだが。

区の情勢について

区長 大屋敷 清利

前号以降の諸行事等をお交えて区の情勢をご報告する。

三月四日、第十五回「萩の里ふれあい広場」が区民会館で開催された。招待者、保育園児、実行委員三百余名が一堂に会し、なごやかな雰囲気の中で行われた。

三月二十七日・二十八日は、萩山神社の春祭。今回は、

七年に一度の御柱祭。巡礼沢から「一の柱」が、完成したばかりの湯が洞線を曳行されたのも思い出に残ることである。(詳細別稿)

常会長・委員合同会議は、区民総会に代わるものとして、三月二十日、年度末のまとめを、四月十八日新年度の発足を行った。

四月二十五日、町教育委員会から湯が洞線工事で掘り出された大石の保存説明が行われた。この石は、江戸時代に起きた「未満水」の時流されてきて埋もれていたものと考えられる。遺跡調査で、縄文時代からの祖先の足跡が確認され、大洪水に見舞われながら生き抜いてきたこの地の象徴として残しておきたい。場所

は、湯が洞線と夕映え道路の交差点南の空地。

五月三十日、区有地の巡視現地確認を監査委員と三役・代議員で行う。前年度、区有林・神社林の境界を中心に実施したので、本年は、区内各地にある真地等になっている所である。

健康センターについては、区報五十六・五十七号で報告した経過を辿って、一月二十六日、安全祈願祭を行い工事に着手、四月末には建物はほぼ完成した。

建設地は、下市田河原の旧試験場跡地約三〇〇㎡の南側、木造と鉄骨の平屋で約五四五㎡、内部の施設は、水中浴運動用の縦一五m横八mの温水プールで水深の調節ができる可動床である。

多目的室は、運動や小集会など名前通り目的に応じて使える。畳コーナー、喫茶コーナー、厨房等々。

大島川砂防事業計画は、平成十一年度から始まりダム建設等が計画されていたが、脱ダム等によって新たに砂防堰堤が計画された。



事業期間は、平成二十二年まで、事業費は一五億円、県営事業である。堰堤は、五基。区有林作業等で集合地になった山の神やや上流に一号堰堤、不動滝に向かつて五号堰堤まで建設される。十六年度は、取付道路と一号堰堤工事が今秋か冬頃から工事着手の予定とのこと。については、不動滝線の現道が一号堰堤にかかるので付替道路が下市田区有林を通過する。下市田北部は、大島川の下流域、区民の安全にとって重要な大事業、ご理解をお願いしたい。

下市田日赤奉仕団より区民会館へ、やかん三個が寄贈された。感謝…。

平成15年度 下市田区一般会計決算報告書

(自平成15年4月1日～至平成16年3月31日)

収入金計 44,154,657円 支出金計 37,120,545円 差引残高 7,034,112円

I. 【収入金の部】

項 目	予 算 額	決算収入額	比較増減
1. 区 費	14,500,000	15,513,570	1,013,570
2. 繰 入 金	710,000	719,300	9,300
3. 町 支 出 金	13,500,000	14,436,018	936,018
4. 財 産 収 入	1,200,000	1,535,148	335,148
5. 寄 付 金	350,000	201,470	- 148,530
6. 消 防 義 務 金	2,250,000	2,320,000	70,000
7. 諸 収 入 金	500,000	1,879,161	1,379,161
8. 前 期 繰 越 金	7,549,990	7,549,990	0
収入合計	40,559,990	44,154,657	3,594,667

II. 【支出金の部】

(単位 円)

項 目	予 算 額	決算支出額	比較増減
1. 総 務 費	13,055,000	12,390,619	- 664,381
2. 環 境 衛 生 費	1,200,000	991,855	- 208,145
3. 林 務 費	1,000,000	826,036	- 173,964
4. 土 木 費	9,200,000	6,723,464	- 2,476,536
5. 水 利 費	8,000,000	8,726,779	726,779
6. 消 防 費	2,700,000	1,961,792	- 738,208
7. 公 民 館 費	3,000,000	3,000,000	0
8. 予 備 費	2,404,990	2,500,000	95,010
支出合計	40,559,990	37,120,545	- 3,439,445

平成15年度 高森町公民館下市田支館決算報告書

(自平成15年4月1日～至平成16年3月31日)

決算収入額 4,102,434円 決算支出額 3,310,285円 残 高 792,149円 (JAみなみ信州預金残高)

1. 収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減
繰 越 金	550,000	622,216	72,216
繰 入 金	3,000,000	3,000,000	0
補 助 金	400,000	454,200	54,200
雑 収 入	1,000	26,018	25,018
合 計	3,951,000	4,102,434	151,434

2. 支出の部

△印減 (単位 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減
総 務 費	1,990,000	1,792,692	△ 197,308
事 業 費	1,700,000	1,483,434	△ 216,566
広 報 費	20,000	7,759	△ 12,241
予 備 費	241,000	26,400	△ 214,600
合 計	3,951,000	3,310,285	△ 640,715

委員会活動報告

水利委員長 林 守夫

日頃、用水路・排水路の清掃管理等水利事業につきましてご協力頂き、厚く御礼申し上げます。

水利委員も任期の前半が無事終了し、後半になりました。今後とも区民の皆様にご迷惑をお掛けしますが、より一層のご協力をお願い致します。

田植えが終わりますと梅雨の時期になり、雨が降ると、すぐに中小の河川が氾濫し、災害の危険があります。以前は用排水路、即ち農業用排水路の感が強かった様に思いますが、最近では生活様式、住宅様式も様々に変わる中で、道路改良も進み、宅地造成も日増しに進んでいます。一旦雨になるとすぐに中小河川、用排水路はたちまち増水・氾濫し、災害の恐れが出て来ます。



守夫

これだけ公共の清掃管理、井ざらい等行い、最寄りの水系を再度確認し、地域全員で取り組む事が大事かと思えます。

水利委員会で、今非常に頭を痛めている問題の一つに、同意書に印鑑を押す事です。最近の農業状況、社会状況による農地転用に必要なのですが、時の水利委員が簡単に印鑑を押すべき性質のものでは無いと思っています。今後協議検討をお願いします。

これだけ公共化された用排水路ですが、災害を未然に防ぎ、用排水路の機能を確保しておくには、常日頃

の清掃管理、井ざらい等行い、最寄りの水系を再度確認し、地域全員で取り組む事が大事かと思えます。

水利委員会で、今非常に頭を痛めている問題の一つに、同意書に印鑑を押す事です。最近の農業状況、社会状況による農地転用に必要なのですが、時の水利委員が簡単に印鑑を押すべき性質のものでは無いと思っています。今後協議検討をお願いします。

今後とも水利事業に、区民の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

十五年度決算 監査委員所見

塩沢 学

去る四月二十三日平成十五年度下市田区一般会計、特別会計、下市田支館会計、萩山神社一般会計、特別会計決算の監査を実施いたしました。

各会計とも適正に処理されておりました。

代議員会、各委員会記録簿の点検についても適正に記録されておりました。

区一般会計収入につきましては、前年度よりも繰入

れ金の減収となりましたが、区費の方は、増収となりました。収入につながる区費の徴収に對しましては、それぞれの方法で協力していただく努力をされておりました。

今後の計画として、五月三十日、区・神社財産台帳と現地(物)との点検、照合、八月 区・支館・神社保存会備品台帳と現物との照合、十月 平成十六年度区・支館・神社各前期会計決算、十二月 平成十六年度保存会会計決算。

今後とも公平不偏の態度で勤めてまいります。

平成16年度 高森町公民館下市田支館事業計画

月日(曜)	事業名	場所	内容等	担当責任者
5月～6月	区報・館報(58号)の編集発行6月1日	区民会館	企画・原稿依頼・編集 区・支館の報告と依頼原稿	編集責任者 支 館 長
6月12日(出)	地元町議との懇談会	区民会館	地元町議の議会報告 区民の要望・懇談等	支 館 長 担当部長
7月24日(出)	秋の里まつり	区民広場	盆踊り・花火 演技(保育園・太鼓等) お楽しみコーナー	支 館 長 担当部長
7月11日(日)	町スポーツ大会	各運動場 各体育館	スローピッチソフト ソフトバレー・分館対抗	(分館対応)
8月16日(月)	盆野球大会	各運動場	分館対抗	(分館対応)
10月16日(出)～17日(日)	文化祭り・敬老会	区民会館他	作品展示・舞台発表 宮下和男先生講演会 ぐるりウォーキング 敬老会	支 館 長 担当部長
10月～11月	区報・館報(59号)の編集発行11月1日	区民会館	企画・原稿依頼・編集 区・支館の報告と依頼原稿	編集責任者 支 館 長
11月20日(出)～21日(日)	町ふるさと祭り テント村出店	役場駐車場	おしるご無料サービス	
12月～1月	区報・館報(60号)の編集発行2月1日	区民会館	企画・原稿依頼・編集 区・支館の報告と依頼原稿	編集責任者 支 館 長
2月13日(日)	ベタンク大会	高森ドーム		(分館対応)
3月26日(出)～27日(日)	萩山神社春祭り夕祭 郷土芸能発表		写真・ビデオ撮影	支 館 視聴覚担当
随 時	図書管理	区民会館	図書購入1月初旬 貸出し	担当部長

平成16年度 高森町公民館下市田各分館事業計画

区	月日(曜)	事業名	会 場	内 容 等
1	6月5・19日(出)	土器作り・同野焼き	旧学校・中央公園	保育園児、小・中学生による土器作り 保護者・PTAも
2	7月3日(出)	1区ふれあい広場	中央公園	夏祭り
3	9月26日(日)	芸能祭	町福祉センター	芸能発表・交流会
4	10月30・31日(土・日)	展覧会	ふれあい会館	趣味の作品展示
5	4月11日(日)	じゃがいも種まき	飯田市(座光寺)	子どもたちで(地域農政協力)
6	7月中	じゃがいも掘り	〃	植付・収穫・収穫祭まで
7	7月17日(出)	納涼祭	下二会館駐車場	踊り・出店
8	10月3日(日)	2区ふれあい運動会	下二会館駐車場	
9	1月1日(祭)	マレットゴルフ大会	親水公園	
10	5月9日(日)	親子スポーツ大会	区民会館前広場	グランドゴルフ 高寿会協力
11	6月6日(日)午前午後	力行会スポーツ大会	区民会館前広場	グランドゴルフ
12	10月10日(日)	お好み演芸会 ふれあい運動会	区民会館 南小グランド	常会出演 演芸大会 6種以上の競技
13	7月末	夏季交流スポーツ大会	町民グランド	野球又はソフトボール
14	9月12日(日)	4区ふれあい広場	区民会館	芸能発表等
15	1月1日(祭)	元旦マラソン及びウォーキング	夕映え道路	漸進会・分館共催
16	1月30日(日)	冬季スポーツ大会	高森ドーム	老人クラブ・小学生・漸進会
17	6月27日(日)	分館敬老慰安祭	下五会館	70才以上招待慰安会
18	9月5日(日)	文化芸能祭	高森ドーム内外	芸能クラブ発表会・作品展示
19	1月下旬	分館スポーツ大会	高森ドーム内外	ベタンク・グランドゴルフ
20		アパート及び独立世帯との交流会	下五会館	より良い分館作りの話し合い
21	5月15日(日)	子どもふれあい広場	南小グランド	ミニ運動会
22	5月23日(日)	自治会グランドゴルフ大会	親水公園	各組・常会対抗グランドゴルフ
23	7月17日(日)	南小PTA親子夏の行事	〃	親子スポーツ
24	8月1日(日)	納涼祭	お祭り広場	夜店市 他
25	8月15・16日(日・月)	盆踊り大会	お祭り広場	育成会・婦人団体等と協調
26	8月18日(月)	夏祭り	お祭り広場	大煙火大会・灯籠流し
27	12月23日(祭)	生涯学習	出砂原地区一帯 出砂原地区館	子ども提灯行列・子ども神輿 正月飾り講習会 (講師老人クラブ)
28	1月7日(日)	どんど焼・お楽しみ会	天竜河原・地区館	育成会・PTA

萩の里ふれあい広場

民生児童委員 蜂谷睦雄

寒風吹く晴天下の三月四日、招待者を乗せたバスが次々と区民会館に到着。招待者百五十余名、実行委員九十余名、ステージ発表の下市田保育園児百十余名、更に交流グループ「笑いのワ飯田」の六名を加え総勢三百六十余名による「第十五回萩の里ふれあい広場」

が開催されました。招待者の方々は、

開会行事後、園児によるステージ発表には「かわいらしい」の声があちらこちらからもれておりました。その後は、心のこもった手づくりの味ご飯を、園児と向き合って全員でご馳走になりました。なす菜入りのおひたしやホーレン草の香りに、又真紅のイチゴの色に春を感じながら、美味しく頂きました。

午後は腹話術を中心とした「笑いのワ飯田」の皆さんとの交流会が持たれ、会場は笑いの輪一色となり、一時間はあっという間に過ぎていきました。会の終わりに、下市田二区松村稔さんが、招待者を代表して力のこもった謝辞を述べられ、感動しました。

一切を終了した後は、かわしわ餅と果物でお茶の一時を過ごし、参加者は会場でのふれ合いの温もりを大事に、雪まじりの寒風吹く早春の里道を帰路へと向かいました。

こうした会が持たれる度に感じる事は、参加したくとも種々の事情で会場へ足を運べない方々が居られる事です。そうした方々も含め、今回の招待者全員の今後のご健康をご祈念申し上げ、筆を置きます。

最後になりましたが、本行事実施に当たり、ご多忙の中を、事前準備を含め、当日の行事が円滑に行われる様お力添え下さった実行委員の皆さんに、心からお礼、感謝を申し上げます。有難うございました。



平成16年度 高森町公民館下市田支館
歳入歳出予算書

(自平成16年4月1日～至平成17年3月31日)
平成16年3月16日可決

歳入の部		歳出の部		(単位 千円)	
科 目	本年度予算額	科 目	本年度予算額		
繰 越 金	600	総 務 費	2,240		
繰 入 金	3,000	事 業 費	1,760		
補 助 金	450	広 報 費	20		
雑 収 入	1	予 備 費	31		
合 計	4,051	合 計	4,051		

平成16年度 下市田区一般会計
歳入歳出予算書

(自平成16年4月1日～至平成17年3月31日)
平成16年3月16日可決

【1. 歳入の部】		【2. 歳出の部】		(単位 千円)	
区 分	本年度予算額	区 分	本年度予算額		
1. 区 費	15,000	1. 総 務 費	12,000		
2. 繰 入 金	550	2. 環境衛生費	1,170		
3. 町 支 出 金	6,000	3. 林 務 費	900		
4. 財 産 収 入	1,200	4. 土 木 費	6,000		
5. 地 元 負 担 金 (寄 付 金)	350	5. 水 利 費	2,500		
6. 消 防 義 務 金	2,100	6. 消 防 費	2,600		
7. 諸 収 入 金	1,500	7. 公 民 館 費	3,000		
8. 前 期 繰 越 金	6,500	8. 予 備 費	5,030		
合 計	33,200	合 計	33,200		

萩山神社御柱式年大祭

山の大木は
神の木となる

きれいに晴れた空、その空にうかぶ三発の花火の煙。御柱祭の朝が始まった。前回の寅年から七年目、いろいろの事がはじめてと言えり位わからない事ばかりであった。

一月二十七日に実行委員会を立ち上げてから二ヶ月間御柱一色の生活でした。二月に入ってから、検木や山出し作業がありました。巡礼沢と大丸山から切り出しをしました。特に巡礼沢は大変でした。六年前の寅年の時には、御柱に適した木が沢山あり、まだ二十数年は大丈夫と思っておりましたが、御柱に使える木がほとんど松食い虫にやられて切り倒されておりました。今年も南

城跡近くの一、番上からの切り出しで、大変難儀をしました。当日には朝から大勢の氏子の皆さんに参加していただき、九時の花火の合図で柱が動き始めました。南の壺の柱も声高らかな木遣りと、消防団の威勢の良い進軍ラッパでスタートし、恒例の南大島川での木落としが行われました。北の式の柱も出発してすぐ木落としがあり、一区ふれあい会館前では、一区の皆さんから祝い酒の振る舞いを頂きました。両方の柱共、区民の皆さんからの振る舞い酒を頂きながら順調に柱を進め、十一時三十分には合流する事が出来ました。昼食のあとの「浦安の舞」の舞姫出発式も盛大に出来ました。神社境内での建て御柱も順調に進み、頭に幣束が取り付けられた時には、無事終わったと思うと共に胸にこみ上げてくる感謝の気持ちでいっぱいでした。二ヶ月の間に、区をはじめ多くの団体の皆さんにご協力頂き深く感謝申し上げます。六年がたちますと記憶も薄れて前回の事を忘れてしまします。今年は前々回の申年とその前の寅年の資料を参考にさせて頂きました。記録をしておくことがいかに大切かをしみじみ感じました。今年も細かな所まで記録を残したいと思っております。



六区 渡辺かおりさん
五区 原 恵利子さん
四区 木下絵理さん
三区 塩沢真実さん
二区 福島理沙さん
一区 野牧麻美さん



御柱祭実行委員長

橋 都 明 彦

最後にりましたが、御寄付、御祝儀等頂き有難う御座いました。

下市田のみなさん

こんにちは

六区出身 中村 ケイ子

(東京都在住)

緑の美しい故郷を想いながら、古希を迎えました。私の一番の自慢の事は、赤石の見える教室で学び、広い校庭で体を鍛え、巣立った事です。天竜社に入社して、マユを繰る仕事を習い、電話の受け方も出来ない者が、立派な上司に恵まれ、先輩、同僚に学び、よく働きました。夜間は、花嫁修行に励みました。近隣の若い人達と交流を深め、村の将来や農家の生活改善等、勉強しました。違った社会も知り、人生勉強をよくした時期でした。天竜河原でコーラスをしたり、フォークダンスに、山奥に華材を取りにハイキングしたり、とても充実した七年でした。

結婚して世田谷の地で生活を始めました。井のなかのカワズ。厳しいものでした。夢中で頑張りました。二人の女の子に恵まれ、今、孫四人です。介護ボランティアに出て違った働きをしています。

故郷の父を、母を思い、山や川を懐かしみ、歌ったり手をかしたりして頑張っています。

中卒五十周年記念は同期の地元の方々のご尽力で、盛会で有意義でした。ダサラの幼馴染みとは、五十年振り膝を交えて語り合いました。町の施設の立派さ、うらやましいです。世田谷の友に赤石の見える段丘に立たせてやりたいと、常々思っています。

皆様方のますますの御活躍を願っています。

祝東京都消防褒賞受賞



コーヒーの薫香に酔いしれて

一区 北澤 寛

京のある名
コーヒー屋
のモットー

朝のコーヒー。仕事の合間の一服のコーヒー。ちょっとおしゃれにフランス料理を食べた後のコーヒー。どうして我々はここまであのコーヒーの香りに魅了されるのでしょうか。実は私はそのコーヒーのとりこになってしまった人間の一人です。

「コーヒーは生鮮食品である」これは東

まは生のコーヒー豆を入手します。コーヒーの生豆は、コーヒーの木にたわわに実る赤い実の種子ですが、白っぽい緑の生臭いものです。さて、これをいかに焙煎するかですが、これがまた実に単純。生豆を銀杏煎りに入れ、ひたすらガ



スコロの上でふり続けるだけなのです。はじめは遠火で豆の中の水分を抜き、豆が白っぽくなってきた頃近火にし、勢いよく焙煎をはじめます。だんだん完成に近づいてきたときの薫香は焙煎したことのある者にしか味わえませんが、豆が焼き上がったら即座にドライヤーの「冷風」で冷やします。焼きむらなくふくらと焼き上がったければ成功です。

単純なようで、網のふりかた、火の強さ、近火にするタイミング、そして豆の種類によっていつ焙煎を止めるか、実はこれは一度こ

随想

(老人クラブ)

三区高寿会の実情

三区 田口正幸 (前会長)

私が老人クラブに入会したのは昭和六

十三年だったと思います。

下市田公民館長として総

会などに招待されたので年

だから仲間に入れてもらっ

た。そして、お宮や地下歩

道の掃除に参加した。集ま

る人は五歳から十歳年上の

人が多かった。若い人が入

てくれてお陰様だと言われ

たが、ゲートボールには声

がかからなかった。



私達が年寄りだけでなく
保育園児・小中生・若い父
母と交流会をもったり話し
合うことを望みます。

歌謡・ダンスはそれぞれの
班で計画を立て楽しい活動
をしている。



中学二年になって

中二 市岡貴章 (二区)

中学校生活も一年が過ぎ学校のようすも色々わかってきたし、生徒会や新しくなったクラスにもなれてきて、楽しい学校生活を送ることができました。でも楽しく過ごせたのはやっぱり部活動があったからだと思っています。

ぼくは、一年生の五月から野球部に入りました。入った理由は、小学校からやっていたので、中学

ていたので、中学校でも続けてやって、うまくなりたいて、と思って入部しました。最初は軽くキャッチボールや走ることしかさせてもらえなかったけれど、だんだん本格的な練習をさせてもらえるようになりました。

バッティングも、ぼくは右打ちだったのですが、左打ちに変えるように言われて、少し当てるようになりました。



湯ヶ洞線工事の現状

下市田五区 栗下 正

ふる里農道湯ヶ洞線は平成五年から始められ、平成九年完成と聞いていました。が、大分遅れて漸く先が見えてきました。

この三月、御柱祭ギリギリに国道一五三号線から竜西線まで四五〇mが開通しました。

真新しい道を御柱の里曳きが行われ、目出度く開通式ができました。

竜西線から上県道までは既に開通していて、目下弓矢橋の交差点の工事が進められています。

上県道から上は座光寺側へ渡り湯ヶ洞へと至ります。高森町は段丘の町と言われているので、下段から上段への直通の道路がなく、緊急車両には不都合と言われているので、この湯ヶ洞線はそうした面からは是非必要

な道路で、大いに利用活用されたいと思います。

広域農道に接続されて車も多くなりました。更に湯ヶ洞まで完成すると益々多くなる予想されます。

道路規格も前より大分よくなって車道が六・五m、歩道が一・五mとのこと。それにカーブもずっと改良され見通しがよくなりました。こうなると車はスピードをあげて走るので、道路を横断するにも余程の注意をしないと危険です。

湯ヶ洞線から広域農道を通って飯田の市街地へ向かうと驚く程早く行くことができます。改めて道路の大切さが感じられます。

道路が良くなっている面、悪い面がありますが、事故のないように気をつけたいと思います。

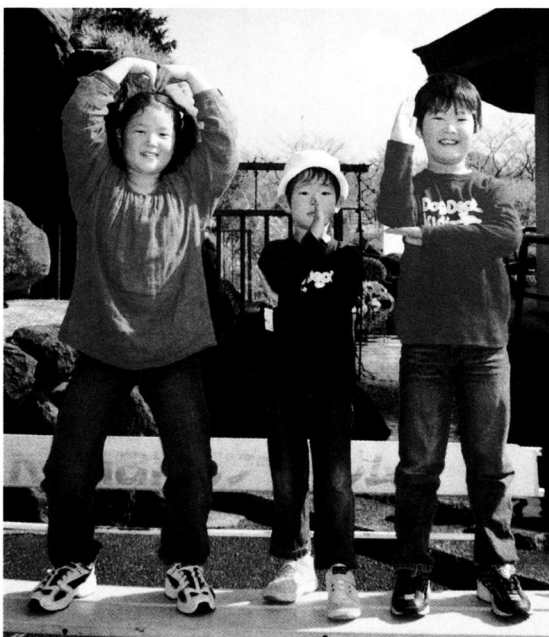
完成は十一月とか。

わたしの作文 ぼくの作文

今がんばっていること

小五 柴 彩夏 (六区)

私は、今夢中になっていることがあります。それは、ドッジボールです。なぜかという、五年生でドッジボールの県大会へ行きたいからです。時間があ



左端が 彩夏さん

ある時は毎日練習をしています。練習している時に、男の子のボールが速くて受けられず、当たってしまふことがあります。でも、毎日練習しているから、前より取れるようになった。き

自分でも、「ボールは取ろうと思えば取れるんだ。取れるぞ。」と思いながらがんばって取



地域の紹介

下市田二区

部落長 松島修三

私たち下市田二区は北を一区に、東は六区に、西は三区に隣接し、南は肥沃な天竜川水田地帯と、活気あふれる工業団地に接する穏やかな人柄の集落で、歴史的な「共励会」と言う自治組織で日常のあらゆる活動が営まれている地域である。

近年若者の家庭も多く、他の町村から新しい仲間と



なっており、住む人もたくさん増え

つがある。

青壮年の「共励会」、若いママさんの「明星会」などの地域の活動に大切な団体の他、同好趣味のグループもたくさんあって、公民館事業や地域の事業にも積極

極的に参加している。

「共励会」は共南常会・共中西・共中東・金部南・金部北・金部東、そして共北東常会の七常会よりなり、十五組合百二十五戸の住民が集会所パーシモン会館を拠点に、親水公園や下市田健康センターなどそれぞれの施設を活用し、整った道路網や地域経済を担った工業団地、そしてJASスーパー、パースなど商業施設も充実している中、五百人の住民が仲良く手を取り合って生活している、そんな地域が下市田二区である。

大正琴「しらゆり会」

一区 米山竹代

グループ紹介

私達のグループは平成元年に誕生しました。その後メンバーも代わり、私達は平成十二年に新しく四名参加

して、夜七時三十分から九時三十分まで、第四の金曜日のみ先生が来てくれます。終わった後は先生と一緒に

おしゃべりです。六十歳過ぎてばけ防止と

先生をお願いしています。練習日は月に三回です。下市田の区民会館をお借り



第23回 飯伊地区松澤教室大正琴発表会 御一行様

この他、全国大会も年一回参加するなど、旅行気分も楽しんでいます。

温泉の「天心」にて一泊しました。

区民会館の

公共下水道接続と

会館使用について

*公共下水道への接続完了

下市田区民会館は平成九年の竣工以来今日まで、合併浄化槽により汚水の処理をしてきましたが、公共下水道の本管布設工事の完了に伴って、去る三月の代議員会で公共下水道接続工事の承認を頂き、地元業者三社（広域工業（株）・（有）高森設備・（有）K&Kフジタ）から見積りをとり、最低価格を提示された広域工業（株）さんと折衝の結果、工事費三五七万円（消費税込）と四月一日～四月三十日迄の工期で完成いたしました。

この間、区民会館の使用を一部三区力行会館へお願いするなどご迷惑をお掛けしましたが、ご協力を頂き誠に有難うございました。今後の使用につきましては本管迄の距離が遠く、勾配が少ないので途中で詰まる心配があります。使用後は必ず（大）で流すようにして下さい。

副区長 木下 豊

*区民会館使用について

区民会館は区民の大切な財産です。使用するときは次の点に特に注意してください。

ださい。

一、区民会館を使用する時は必ず事前に副区長（木下 豊 三五―四〇〇四）へ申し込み、許可を得て使用してください。

二、玄関の鍵は区三役、公民館（支館）三役の所から借りるようにしてください。（なるべく他からは借りないように）

三、使用する団体やグループは責任者を明確にして責任をもって使用し、使用簿を記載してください。

四、使用後は片付け、清掃を行い、戸締まり、消灯は責任者がやって下さい。（他人任せにしない）

五、台所（厨房）を使った場合は什器など汚れ物の片付け、生ゴミの処理をきちんと行う。

酒やビールの残りは流しへ捨てないで別の所へ処理してください。ガスの元栓は必ずしめてください。

副区長 木下 豊

後記

皐月の陽光と共に取り組んだ五十八号編集を終え、本日皆様のお手許へお届けできることを嬉しく存じます。新しい委員を迎えて、二年目最初の編集作業も滞りなく進み、発刊二十年を経た息吹に寄せて、新たな意気込みを感じています。

編集

区の情勢、決算報告、十六年度支館分館の事業計画等、年度始めのお知らせをご覧の上、ご理解と今後のお力添えをお願い致します。

区民会館で開かれた「ふれあい広場」では、多くの高齢者の方々に楽しんで頂きました。そして、御柱祭りの熱気が表紙の写真と共に、今、甦って参ります。

野山に響く木遣り歌、御柱曳行の掛け声、ラッパ：下市田の里曳きは、大勢の人々に見守られて、無事萩山の社に立てられました。

他地区よりのお便り、作文、諸工事の完成等、新年度出発に相応しい内容が、紙面狭しと載せてあります。

本年度も「萩の郷」へのお力添えをお願いし、ご感想等お寄せ下されば幸いです。